

食料・農業・農村政策審議会企画部会 議事概要

【日時】 令和3年4月22日（木）10:00～11:45

【場所】 農林水産省第2特別会議室

【出席委員】 大橋企画部会長、有田委員、栗本委員、近藤委員、佐藤委員、染谷委員、中家委員、宮島委員、三輪委員、柚木委員（欠席：磯崎委員、高島委員、高野委員、堀切委員）

【概要】

- ・ 食料・農業・農村白書本文（案）、国連食料システムサミット（FSS）を議題に開催。主な発言は以下のとおり。

（1）食料・農業・農村白書本文（案）について

（中家委員）

- ・ 米は厳しい状況で本文にあるとおり正念場であるが、概要版では危機感が足りない印象。本文は大部であり読む人は限られていると思われるため、概要版でも危機感が伝わるように記載いただきたい。
- ・ TPPなどで国際化が進んでおり、輸出は詳細に記載しているのに対し、輸入についての記載が非常に少ない。次年度で構わないので、国際化のなかで輸入がどのような状況にあるのか、ある程度の分量をもって記載いただきたい。
- ・ みどりの食料システム戦略は重要であり、中間とりまとめの内容は、我々の認識・方向性と一緒であるが、現場の現状とは乖離が大きく、現場に浸透していない。戦略を実践してもらうためには、現場の理解が不可欠である。現場の人が理解できるように、また、流通関係者、消費者も含めて環境に対する価値を知っていただけるよう、本質的な対話を行っていただきたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症について、今後、この教訓を政策等に活かしていく必要がある。緊急事態宣言が再発令されようとしているが、農業には相当な影響が生じている。引き続き、影響を十分に踏まえ、今後も必要な支援策を講じていただきたい。

（染谷委員）

- ・ ある新聞のカーボンニュートラルの記事では「食料」と「農業」という言葉が一言も出てこなかった。農業に関するカーボンニュートラルの取組について発信をしていかなければならないと感じた。
- ・ みどりの食料システム戦略の中に、農薬の使用量50%削減、有機農業を全農地の25%

で普及という記述があるが、これは本当に可能なのか。自分でも有機の米を5ヘクタールで栽培していたが、10年前に辞めた。日本で有機農業を普及させるには、草が一番問題。ヨーロッパ等では湿気が少なく草が少ないため農薬が少なく済むが、日本は害虫も多い。

(柚木委員)

- ・意見をしっかり盛り込んでいただいて感謝。
- ・246 ページで再生可能エネルギーの活用の実態を整理していただいているが、カーボンニュートラルに向け、農村地域の中に太陽光パネルを展開していかなければならない状況。農振地域での整備、農地転用制度など考え方が示されたが、可能であれば、この中に今後の方向として入れていただいてもよいのではないか。
- ・みどりの食料システム戦略関係について農業者や食品関係者が具体的にどのような点を注意して対応していくべきかというメッセージを送っていくべきではないかと思う。
- ・高齢化が進み、認定農業者も65歳以上が4割以上になっている中で、農地をどう継承していくかという観点も入れた農地政策の推進が必要と思う。再エネや多様な農地の活用の視点も、今後の農業政策として重要となる。

(有田委員)

- ・これまでの意見を反映して作られており、私からみると100点、十分わかりやすくなっていると思う。
- ・みどりの食料システム戦略について、化学農薬の50%削減など、高い目標を掲げるのは大事なことだと思う。団体からも情報発信をし、自分たちも勉強しながら支持していきたい。
- ・SDGsのアイコンを概要版も含めて入れていただいて、現状を理解しやすくなっていると思う。

(三輪委員)

- ・これまでの意見が反映されており、分かりやすく作っていただいていると思う。事例として具体例が示されており、読みやすくなってきたと感じる。
- ・一つの政策が色々なものにリンクされることが多いので、ぶつ切りにならないような表現をしていただければと思う。例えば、みどりの食料システム戦略は、環境対応だけでなく新しいイノベーション、食料需給、フードセキュリティという観点にもつな

がる。

- ・ウェブ上に白書を公開するときは、ワンクリックで関連する政策に飛べるようにしていただけたらと思う。たとえば、農業 DX を詳しく知りたいと思ったときに、白書の本文から DX のページに飛べるなど、ウェブ版で階層構造があればよいと思った。

(近藤委員)

- ・みどりの食料システム戦略について、現場はピンときていない。いつまでに何をすればいいのか、工程表がないので、他人事のように聞こえている。
- ・イノベーションに委ねるところが非常に大きい。エネルギーの自給をどうやって行うのか、施設園芸におけるイノベーションがいつ頃実現するのかわからないので、今投資してしまって大丈夫なのかと考えてしまう。絵にかいた餅にならないようお願いしたい。

(宮島委員)

- ・大変なまとめに感謝。申し上げたことについてきちんと反映していただいている。
- ・カーボンニュートラル、女性など、農業以外の人たちも関心があるところについても書いていただいている。できるだけいろいろな方に読んでいただきたい。白書にはこの1年の全体を知ることができる辞書のような役割があると思うが、この部分はどの人に読んでもらいたいかということを整理していただくと、よりこの白書が生きると思う。白書を全部一気に読む方はいないので、それぞれの関心部分を読むと思う。昨年度の白書で取り組んだように、ホームページに「この点はこの人たちに読んで欲しい」と分かるようなガイダンスをつけてほしい。また、今回の白書はここだけは読んでほしいというのもあればと思う。
- ・農水省のホームページにアクセスしない人たちへの発信も必要。以前は省庁のシンポジウム開催イベント自体がニュースになったが、今はニュースで取り上げられない。その理由は、記者クラブしか知りえなかった情報も、インターネットによりメディアを通さなくても見ることができるようになった、などの変化がある。
- ・読者をつかみにいく、対象にどうアプローチしたらよいかということを考えて発信していただきたい。それぞれのターゲット向けに「ここを読めば役に立つよ」という発信をすればよい。
- ・今は QR コード等ちょっとしたところに URL を貼ることにより、呼び込むことができる。農水省は BUZZ MAFF も twitter も活用し、省庁の中でも上手に情報発信しているので、活かしていただければと思う。

(栗本委員)

- ・コロナ禍で、現場に行けない中で事例等を多く入れていただいて非常にわかりやすく、興味を引く内容になっていると思う。
- ・トピックス2のみどりの食料システム戦略について、農薬について「リスク換算で50%削減」とあるが、「リスク換算」は何か教えていただきたい。農業者が分からない表現では、実行のしようがない。本日の日本農業新聞で農薬について、削減目標を農薬出荷量で計算していくと記事があったが、それも疑問。家庭の薬箱を想像してみると、普段市販薬を余分に備蓄し、病院の薬も飲み切らずに在庫になっていると推測できるが、農薬保管庫も同じ。購入量と農薬使用量というのは一致しないので疑問に感じている。大元となる基準が現場にわかりやすいものにならないと、50%削減という目標に向けやる気をもって実現する気にならない。
- ・みどりの食料システム戦略について、生産現場の取組は多く記載されているが、実際に経営していく中で、一番エコではないと感じるのは出荷資材。いちごの場合、出荷資材にはパック、シート、フィルム、箱がある。例えば、1パック500円のいちごがあるとすると、生産者はそのうちの5~10%を資材費として支払っている。今、いちごも輸出、インバウンドや贈答用などできちんとした箱、資材を使用しているが、資材代だけで500円以上かかっている。商品として成り立たせている部分も取り込まないと意味がない。
- ・イノベーションは技術によるものも大きいですが、社会全体の心と考え方の革新を含めた戦略にしていけないといけないと改めて感じた。今後の進め方を注視したいと考えている。
- ・131ページの農業所得のところ、所属している遠州夢咲農業協同組合について、事例として記載していただいた。所得が上がっている産地もあるが、借入れの返済で黄色信号が出始めている人もいることも付け加えておきたい。

(佐藤委員)

- ・白書全体的には非常によくまとまっていると思う。審議会に参加した最初ころから、白書は誰が読むのだろうという疑問を持っていた。白書を作っていることも知らない、読んだことがない人が多いので、白書についてどういうものなのか、先日根本的に調べてみた。施策のための報告書ということはわかったが、それに関わってくる農業者や消費者にも日本の農業の現状を知ってもらえれば互いに良いのではないかと実感した。

- ・この春、福島県の晩霜被害に関しては、20年来で最もしている。全滅に近いところもあれば、努力して管理をして3分の1くらいの被害に食い止めているところもある。最近、地球温暖化が影響してきていると肌身で感じる。これ以上悪化させてはいけない、そうしないと福島で果樹を作ろうと思う人はいなくなってしまうと思う。自然環境を保護することは大事なことだと思うので、みどりの食料システム戦略は細かい点についてはもっと説明が必要だと思うが、人の気持ちを変えるきっかけとなればと感じている。ひとつとにならない訴えがこの白書でできればと思った。みどりの食料システム戦略を確立していくならば、携わる人の意識が大事であり、行政の農地集積もその柱になると感じているので、方向性をきちんと決めて、いい方向に進んでいってほしいと感じている。

(天羽政策統括官)

- ・中家委員の米の情勢に関する御指摘について、概要版はスペースの制約もあるが、どういう工夫ができるか検討してまいりたい。

(菱沼技術会議事務局長)

- ・みどりの食料システム戦略について、中間とりまとめとして公表させていただき、パブリックコメントも頂いているところ。生産者とも、20数回ヒアリングもさせていただいたが、御指摘のとおり、まだ現場に伝わっていないという状態。最終取りまとめの際には、しっかりとお伝えしてまいりたい。
- ・これは戦略であるので、その下に戦術、作戦というのがある。生産力の向上と持続性という相反するものについて、イノベーションで対応していこう、長い時間をかけてイノベーションを起こしていく、産学官で連携して30年後に実現しようというもの。現場の方々、消費者の方々には、これからの政策のグリーン化の検討を通じて、工程表を示していきたい。
- ・イノベーションの工程表の各項目について、どのようにイノベーションを起こしていくか、戦術を考えていかないといけないと考えている。
- ・イノベーションを起こすためには高い目標を立てないといけない。有機農業は草との戦いであるが、小型除草ロボットの活用などのイノベーションにより、チャレンジしていこうと考えている。
- ・今何をすべきかということについては、今の優良モデルを横展開し、地域コミュニティの中で有機農業に取り組んでいかなければならない。生産、流通消費一体となって、やっていかないといけないといけない。

- ・カーボンニュートラルについて、今日から気候変動サミットが始まるが、大きな温室効果ガスの削減目標が出されるといわれている。マスコミではエネルギーに関するの方がよく取り上げられるが、経済産業省や環境省と協力して策定したグリーン成長戦略では、農林水産業についても位置付けられている。唯一温室効果ガスを吸収する分野であり、新しい生産体制を作っていけないといけないと考えている。
- ・生産、消費についても、国民全体の中で意識改革をしていく必要があり、皆の動機付けとなるように、情報発信していけないといけないと考えている。みどりの食料システム戦略については、連休明けに最終取りまとめをしていきたいと考えている。

(松尾審議官)

- ・柚木委員から人や農地の問題について、白書とは関係ないが施策をしっかりと実行していただきたいという御指摘があった。人口減少が進む中で、担い手の確保、農地の適切な利用、農山漁村での所得確保等、基本計画を踏まえしっかりと対応していきたいと考えている。

(森審議官 (兼消費・安全局))

- ・栗本委員からのリスク換算についてのお尋ねだが、基本となる考え方としては、農薬の量は毒性などのリスクを踏まえて考えるということで、詳細は今まさに、農薬分科会で検討しているところであり、現時点では決まっていない。今後、詳細が決まり次第わかりやすく伝えてまいりたい。

(水田生産局長)

- ・栗本委員から御指摘のあった包装資材の費用については、包装資材や出荷規格の見直しは実需者の理解を得ながら進めていくことが重要と考えている。農水省としては、出荷規格の簡素化のためのモデル事業も行っており、今後も資材費の低減に努めて参りたい。

(有田委員)

- ・栗本委員の発言に関連して、消費者団体でもリスク換算という定義がはっきりしていないという意見があった。
- ・これから色々具体的に考えていくのだろうと思っているが、戦略ということの説明するにあたり、色々なものを総合的に考えながら、農薬を半減するという回答をいただ

きたかった。

- ・白書ではリスク換算についてアスタリスクでも入れていただいて、しっかり欄外でも説明を書いていたきたい。

(大橋部会長)

- ・みどりの食料システム戦略については、自然との共生なので、戦いというのは馴染まないかもしれない。専門家だけの議論でなく、一般の方にも分かりやすい形で検討していただけると受け止めていますので、よろしくお願いたします。

(平野情報分析室長)

- ・三輪委員の御指摘について、トピックスでは、文書の最後に関連する節を紹介するなどの工夫をしているが、本文での工夫については来年度以降改めて検討させていただきたい。
- ・三輪委員、宮島委員のウェブページについての御指摘について、ターゲット別のウェブページの作成などについて取り組んでいるところ。農水省ホームページに来ない人についても、メールマガジンや BAZZ MAFF 等での発信や、バナーの作成によるネット広告にも取り組んでいるところである。
- ・広報については試行錯誤を続けていくものだと思うので、引き続き御指摘を踏まえて改善していきたい。
- ・中家委員から御指摘のあった輸入については、来年の白書において検討させていただきたい。

(大橋部会長)

- ・大部のものを作っていただいて、委員にも評価をいただき、事務局の御尽力に感謝。
- ・人口減少による人材の問題、担い手の確保、需要減、コロナ禍で危機的な状況だと思っている。その中で環境もあるので、対症療法ではなく、システムを作っていくことが大事だと思う。民間事業者などをどう巻き込んでいくかが重要。
- ・みどりの食料システム戦略、イノベーションと話があるが、その手前があると思っている。カーボンニュートラルにお金を付けたい企業もいるが、今は海外にどんどんお金が流れている。日本の企業がクレジットを買って、それを有機農業などの取り組みにお金を回すような認証システムが必要。お金の流れをいかに国内にもってくるか、頭を使わないといけない。そのためには、省庁連携も必要。
- ・物流の件は白書で記述されている以上に状況は深刻。関係省による検討会も3回ほど

開催されており、輸送資材の標準化等に取り組んでいるが、進んでいるのか疑問。物流は一例だが、他の分野についても、必要なデータが取れているかどうかは白書から見て取れない分野がある。アンケート調査ではなく、データで事態を客観的にエビデンスに基づいて、若い職員の方が政策立案に意欲をもって取り組める場としての白書であって欲しい。

(染谷委員)

- ・小学生、中学生を対象に稲刈りの体験をやっているが、去年は5年生130人くらいが来てくれた。そして、米農家のピンチを乗り越えるにはという意見を15人が書いてくれた。毎年、白書の概要や、子供向けの冊子を配布しているが、米農家のピンチを乗り越えるにはと言ってくれたのは、それを見てくれたのではと考えている。米だけでなく、農業について興味を持ってきているので、今回も白書ができたら配りたいと思っている。
- ・消費者や農業者等、配布先を検討して欲しい。より多くの人たちに見てもらいたいと考えている。

(大橋部会長)

- ・予定の時間となったので、この辺りで締めさせていただききたい。白書の案文については、本日の議論やその後の情勢変化等を踏まえての調整が必要となる。今後の調整と修正については、部会長に一任頂くこととし、事務局案を企画部会として承認してよいか。

(「異議なし」の声)

- ・本企画部会の議決については、審議会の議決とすることとされている。白書については、ただいまの承認をもって、後ほど食料・農業・農村政策審議会として、農林水産大臣に答申したい。

(2) 国連食料システムサミット(FSS)について

(有田委員)

- ・主婦連合会も国連食料システムサミット国内対話の一環として意見交換会を行った。国際的視点を持った発言も受け止めて頂いた。
- ・また本日の議論にもあった、「みどりの食料システム戦略」にも関連するような意見も出ていたと思うので、報告する。

(大橋部会長)

- ・国連食料システムサミットは、日本の農林水産業を世界に向けて広報する大変よい機会だと考える。食文化も含め、日本が持っているものを全て出したらいい。
- ・ポスト・コロナにおいて、インバウンドなど、コロナ後の成長に備え、今からタネをまいておくことが大事。

(森総括審議官 (国際))

- ・有田委員がおっしゃった主婦連合会との対話では、食ロスの削減に各ステークホルダーが一丸となって取り組むことが大事だという意見を頂いたところ。また、持続可能な食料調達の観点では、消費者の意識改革が重要だという意見もいただいた。
- ・この関係では、4Hクラブとの意見交換会でも、有機農業を推進していくためには、消費者が変わらなければ生産者も変わらないという意見を頂いている。
- ・そのため、国連食料システムサミットにおいても、消費者の方々にも積極的にPRしていくことが大事だと認識している。
- ・また、大橋部会長がおっしゃったように、海外に向けて、日本の食文化、和食を海外へ打ち出していく重要な機会だと承知。国連食料システムサミットの関係国会合などでも我が国からバランスのとれた食生活の観点について、積極的に打ち出している。

(大橋部会長)

- ・農業も含め日本が元気になるようなサミットになれば良いと思う。

(3) その他

(三輪委員)

- ・白書の修正ではないが、フードテックについて、農水省は「代替肉」という表現を使っているが、大豆ミート、ベジミートなどとの関係で、代替肉という表現がプラスなのかマイナスなのか疑問。乳製品には植物性と動物性というものがあり、豆乳を代替乳とは呼ばないし、マーガリンはかつて人造バターと呼んでいたが、今ではそういう表現を使っていない。がんもどきは大豆ミートのはしりであり、日本の食生活を支えている。肉の代替でないことを伝えた上でその価値を伝えた方がいいのではないか。

(山口政策課長)

- ・フードテックについては振興しその価値を高めるための検討を進めている。御指摘の代替肉という表現がどう受け止められるかというのはあるが、食料・農業・農村基本計画では「大豆等植物タンパクを用いる代替肉」と記載している。今後発展させるためにどう考えていくか。培養肉も出てくるのでどのように進めるのがよいのか引き続き考えたい。

(宮島委員)

- ・国連食料サミットとも関係するが、農業で若者と女性がどう収入を得ているか、日本として説明することが大事。日本では他の産業は女性へのシフトが急速に進んでいる。農林水産業でも女性を戦力にしないと他産業に劣後するおそれがある。

(松尾審議官)

- ・女性の活躍について、白書にも、第五次男女協同参画基本計画ができ、農業分野でも目標を立てながら進めていくことを記載している。また、新規参入も大事であり、若者の農業への関心が高まっていることも記載している。しっかり進めて参りたい。

(以上)